

2年美術・デザイン専攻 1学期 構成課題 (5月分: 6月登校日に提出)

2年4組 ()番 氏名 ()

*この説明をもとに平面構成の課題に取り組んでください。

1. デザインの主な分野

平面デザイン		立体デザイン	
視覚的、二次元的なデザインのこと。ポスターやパッケージ、イラストなど「グラフィック」と呼ばれるもののほか、ウェブなど新メディアに関わるもの。	その名のとおりに、「立体的なもののデザイン」を指します。例えば家電や雑貨から都市・公園など、生活を取り巻くあらゆる製品や空間が含まれます。		
グラフィックデザイン 視覚伝達デザイン ビジュアルデザイン パッケージデザイン キャラクターデザイン	エディトリアルデザイン ブックデザイン ウェブデザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	工業デザイン インダストリアルデザイン プロダクトデザイン カーデザイン スペースデザイン	インテリアデザイン ユニバーサルデザイン ランドスケープデザイン ガーデンデザイン 環境デザイン

2. 色彩構成には大きく分けて2種類ある。

入試での色彩構成は、工業製品や有機物などの物体を特徴をとらえて表現する「モチーフ構成」と、具象的なものや状況を強調や単純化したり、抽象的なイメージを色や形で表現する「イメージ構成」があります。詳しくは合格作品をもとに、どのような種類や特徴があるのかカテゴリーをそれぞれに考えます。

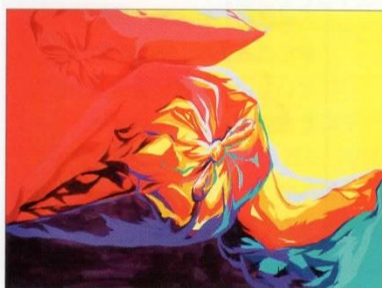
モチーフ構成	イメージ構成
<ul style="list-style-type: none"> ・形体・構造・質感を見せる表現(p18~) ・素材の特徴を見せる表現(p21~) ・具象描写する表現(p24~) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幾何図形の表現(p32~) ・具象的表現(p38~) ・抽象的テーマの表現(p42~)

1. モチーフ構成

■形体・構造・質感を見せる表現

モチーフの立体的な形体と質感を表現します。工業製品の場合はその構造も描き、陰影をつくることで立体物として表現することができます。複数配置構成する場合は、主役と脇役を決め、前後の空間や構図を考慮してモチーフを配置しましょう。彩色方法は具象描写する表現(p13)に近いのですが、ぼかし表現などをせず、彩色面を単純化して平塗りするのが特徴です。

ビニール袋が配付モチーフとなった課題。背景を明暗に分け、その色を中央のモチーフに配しています。3つのモチーフは画面中央と外側に配置。コントラストをつけることで、主役と脇役を明快に振り分けた好例。



2009年 ふなばし美術学院出身
武蔵野美術大学 工芸工業デザイン科 合格



上の作品と同じく、配付モチーフなしで描いたもの。椅子やキャスターをモチーフに、部品の細部まできちんとイメージしています。車輪の構造や金属の質感を丁寧に描いているところも高ポイント。

モチーフであるサイコロは配付されず、想定で描いた作品。サイコロの目のほみや角に丸み(影)をつけることで、サイコロ独特の光沢ある質感と特徴をうまく表現。



2011年 東京武蔵野美術学院出身
武蔵野美術大学 工芸工業デザイン科 合格

■素材の特徴を抽出した表現

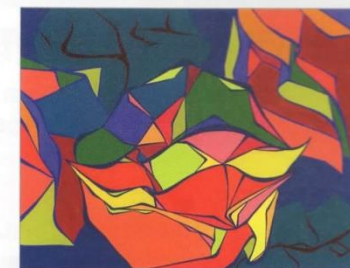
モチーフに力を加えるなどをして、変化が起きたときの表情や素材の特徴を際立たせて見せる表現です。モチーフの特色となるシルエットや細部などを抜き出すために、ほかの要素を省略して描く表現法もあります。

ゴム素材がテーマの課題。風船をモチーフにして、互いに押しつけた状況をつくり、素材の柔軟性や形体感を表現しています。



「ウェットスーツの素材」が配付モチーフ。指で押すと伸びる素材の特性を、背景と明度差をつけた青でうまく表現しています。黄と赤で描いた光沢感は、素材にかかる力の緊張感や伸縮性を表現。

配付モチーフは白い紙。この作品では、丸めたときのシワを表現しています。そのため、豊かな色彩センスが問われます。イメージ構成のような独創的な表現もOKの課題です。



2010年 新宿美術学院出身
多摩美術大学 テキスタイルデザイン専攻 合格



■具象描写する表現

モチーフを写実的に、具体的に描写して構成する表現。基本的にはモチーフのもっている色(固有色)を生かし、形や素材の特徴から組み合わせ方や配置を決めます。ぼかし・かすれ・厚塗りなどを生かしたマチエール(表現効果)や下地を利用するなど、幅広い表現方法も可能です。



縦に並んだネギの間に、干物と夏みかんを配置。明度差と色相の差を生かすことで、印象的に仕上がっています。干物が丁寧に細かく描写されているのも高ポイント。

モチーフをシンメトリーに配置した構成。上部にはスポットライトが当たったようなレモンを描いています。中央の紫タマネギを切断し、すらすらと印象的に表現。



2. イメージ構成

■幾何構成による表現

直線や円弧などを描き、色で分けた(色面分割)した構成のこと。さらに幾何構成には描き手のイメージをプラスしたものや、与えられたテーマに沿って色面分割するものなども。そのほか、その名のとおりに幾何図形を描く表現も含まれます。

幾何図形の基本表現

画面を分割し、それぞれの面を平塗りで彩色します。条件がある場合は、その中でいかに構成の美しさを見せられるかがカギになります。明暗の分け方や色面の密度の違い(疎密)を上手に表現し、メリハリのある画面構成をねらいましょう。



「明と暗」がテーマで、正方形と線により分割された構成。バランスよくリズムカルな印象に仕上がっています。

幾何図形のモチーフ表現

モチーフの形を幾何図形に置き換えた表現です。多くは円弧や直線、三角形や四角形などで表現するため、モチーフの形を省略・単純化させます。幾何図形へどう置き換え、モチーフをどう表現するかがポイントとなります。

「正月の雑煮」を幾何図形で描く課題。円弧の組み合わせでできた形が、餅と汁を端的に表現。



「カレーライスとサラダ」を表現する課題。円を多用し、色と配置により具材や食べ物らしさが引き立ちます。



「けん玉」をモチーフとして、自由な線により画面分割する課題。リズムカルな印象の作品。



2011年 本郷美術学院出身
東京造形大学 デザイン科合格

具象的テーマの表現

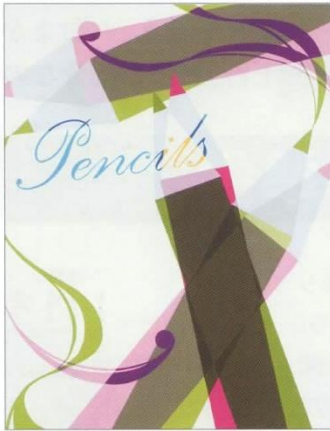
はっきりとした形や色をもつ、具体的なもの(具象物)の表現を指します。モチーフをイメージしてデザイン化しますが、モチーフの構成ともいえます。モチーフをデフォルメし、どのようなイメージに表現するかがポイント。

2匹の蝶と指定の文字を構成する課題。羽根と触角を単純化し、蝶を美しく表現。



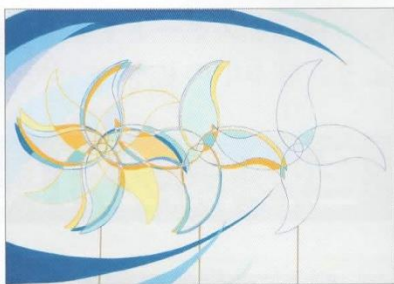
2011年 立川美術学院出身
多摩美術大学 グラフィックデザイン科 合格

日ごろ慣れ親しんでいる鉛筆をデフォルメ。薄めの色使いが、軽やかさを感じさせます。



2010年 すいどーばた美術学院出身
多摩美術大学 グラフィックデザイン科 合格

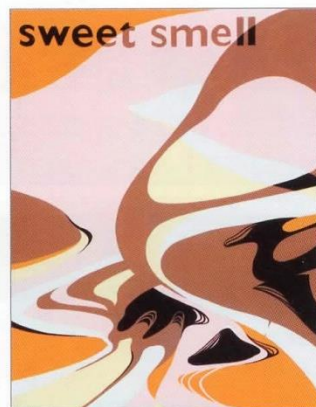
課題は「風」。風まつわることを考えて、風車をイメージ。風車が回ることで、見る者に風を連想させます。



2011年 東京武蔵野美術学院出身
武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン科 合格

抽象的テーマの表現

感情や動き、音、気体——。形をもたず、目には見えないもの(抽象的なテーマ)の表現です。見えないものなので、まずは視覚化します。そのときに対象の要素やイメージを何かに「見立てる」とうまく表現できます。



「甘美な香り」のイメージを表現する課題。柔らかいラインと暖色系の淡い配色が、香りの甘いイメージを感じさせます。

アルファベットを使い感情を表現した作品。S、A、Dの文字が涙で歪んで見えるイメージを描き、「悲しみ」を表現しています。



2010年 東京武蔵野美術学院出身

3. 平面構成の描き方の手順 (1はカットしています)

2. エスキース制作

エスキース(下絵づくり)は構成を考え、完成イメージを決める重要な作業です。まずはいくつかのアイデアを出し、その中からベストなものを選びましょう。よりよいデザインにするためにはねらいをしっかり決めること、形的確かな把握や描写、構成が大切です。次に明度の計画を立て、鉛筆で手早く描きませんが、配色カードや色鉛筆などを利用して、具体的な色彩のイメージをもってエスキースすることもあります。



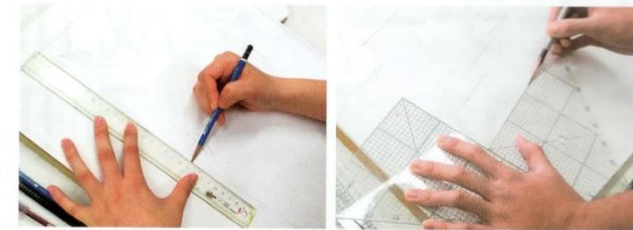
配色カードや色鉛筆を使うことで、色のイメージが具体化。

3. 下描きは作業順番も考えて

エスキースをもとに鉛筆で丁寧に下描きします。円弧や直線を描く際は、コンパスや定規を使用。重ね塗りする場合は彩色する順番を考え、作業に必要な形も含め下描きを。重なった形を描くときは下地を塗ったあとに重ねる形の下描きをします。

用具解説 定規

直線定規は長い線と短い線を描くために、60cmと30cmの2種を用意しておくとう便利。溝付きのものなら溝引きにも使えます。三角定規は直角を描いたり、2枚を使用して、平行な線を描くのに重宝します。



4. 彩色の基本は「平塗り」

絵具を平たく塗ることを「平塗り」や「ベタ塗り」と呼び、色彩構成の基本の塗り方になります。塗るときは絵具や使用パレットをケチらず、水差しを使って水の量の微調整をします。面積のある部分は、この平塗りで塗ります。



用具解説 平筆

広い面積を均一に塗るのに適した筆。適量に調整した絵具を含ませ、画面をならすように塗ります。

5. 細部は筆を変えて彩色→完成

すべてを平塗りで塗る場合でも、色面の形により筆の幅を変えます。平筆には細いものもありますが、平筆では塗れない細部の彩色には面相筆を使用します。



用具解説 面相筆

輪郭を彩色する場合や、細かな部分を塗るのに適した筆。丸筆でも同様の彩色ができますが、均一な幅の線を描く場合は、面相筆のほうが便利です。

Point! パレットを使い分けてスキルアップ!

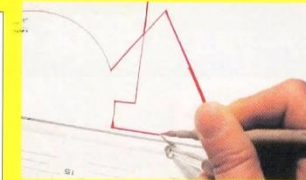
色を大量につくるときはたっぷり入る絵具皿を、グラデーションの色をつくる時広い面を生かせる紙パレットを使うと楽です。また絵具皿は混ぜる際に、色を均一に混ぜるのにも適しています。水の溶き具合は中濃ソース程度をイメージすると良いでしょう。



絵具皿

紙パレット

平塗りの基本方法



1. 面相筆で輪郭を慎重に塗ります。直線は溝引きをしますが、定規が絵具に触れないように注意。



2. 塗った輪郭からはみ出さないように、平筆で塗ります。ムラに注意して均一に、手早く。



3. 細かな色面からはみ出さないように面相筆で彩色します。角は慎重に彩色します。



4. 筆を使い分け、段取りを考えて手際よく作業しましょう。すみすみまでムラなく塗れば完成!